

## 第72回目のGIS News!です

新年明けましておめでとうございます。今年のNHK大河ドラマ「新選組」は元気と勇気を視聴者に発信すると聞きました。当組合もGISNewsを通して、皆様のお役に立つ情報を少しでも多く発信して行きたいと思っております。2004年もよろしくお付き合い下さい。



## 身近で活躍しているGIS

国土交通省では、GISの普及状況を以下のようにHPに掲載しています。

地理情報の所在等を検索できるクリアリングハウスへの登録は着実に進展。地方公共団体のGISの普及は都道府県では8割強で、市町村では3割弱。データを庁内で共用する統合型GISでは、県レベルでは5団体、市町村では118団体。民間におけるGISは、新しい活用分野が増えている。GISの基本ソフトの売り上げは概ね拡大傾向。代表的なGISであるカーナビの市場も拡大の一途。最近ではインターネットを通じたGISサービスが増加中。(平成15年4月22日付)



上記の内容の通り、多くの都道府県や市町村または民間企業が携帯電話向けの情報提供をWeb上で行っており、マイナーだったGISが私達の身近な場所で活躍し注目を浴びてきていることは確かです。ここ数年でGPS機能を搭載した携帯電話が普及し、普通の人でも手軽にGPSを使うことができる時代になり、位置情報サービスは私達の身近な存在となりました。住民は、位置情報・イベント情報・防災情報・公共交通機関情報等を行政機関、民間企業、またはWebを通じて入手することができます。しかし、GISをどこまで身近に感じているのかは疑問に思えます。GPSのように日常的にGISを目にする場所や利用する環境が、まだまだ少ないのが現状なのではないでしょうか。ところが、GISを利用しているという自覚がないまま実はGISに触れているのです。例えば、行政機関で窓口サービスを受けた人がその対応の早さに驚き、「世の中便利になったな。」などと思いながら帰宅する。このサービスがすなわち、GISを基盤とした情報サービスシステムの一部であったりするので。

当組合ではGISをより多くの人に触れていただくために、普及活動や促進セミナーを行なって参りましたが、今後もより良い「まちづくり」のお手伝いができるように、住民ニーズに対応したGISの構築を図っていきたいと考えております。

## 次回のGIS News!

今回は2004年1月19日発行予定です。よろしくお付き合い下さい!

## Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 佐藤香穂里 発行日：2004年1月7日

